

1章 31節 天地創造

2章 24節

3章 24節 蛇の誘惑

4章 26節 カインとアベル

5章 32節 アダムの系図

6章 22節 洪水

ノアの箱舟

創世記

第一章〜第十章



7章 24節

8章 22節

9章 28節 祝福と契約

10章 32節 ノアの子孫 ノアと息子たち

蛇の誘惑

神ノアと契約を結ぶ



第一章 天地創造

初めに神は天地を創造された

地は混沌であつた闇が深淵の面に

あり神の霊が水の面を動いていた

神は言われた「光あれ」として

光があつた神は光を見て良しと

された神は光と闇を分け光を昼と

呼び闇を夜と呼びられた

夕べがあり朝があった才百である

神は言われた水の中に大空あれ

水と水をも分けよ神は大空を造り

大空の下と大空の上に水をも分けさせられた

そのよりになつた神は大空と天と呼ばれた

夕べがあり朝があった才百の目である

神は言われた天の下の水は一つの所に

集まれ乾いた所に現れよそのよりになつた

神は乾いた所を地と呼び水の集った所を
海と呼ばれた神はこれを見ても良くとされた
神は言われた¹²地は草を芽生えさせよ
種を持つ草とそれぞれの種を持つ実をつける
果樹と地に芽生えさせよそのようになった
地は草を芽生えさせそれぞれの種を持つ草と
それぞれの種を持つ実をつけろ木を芽生えさせた
神はこれを見ても良くとされた

夕べがあり朝があった第三の目である

神は言われた天の大空に光る物がある

昼と夜を分け季節のしるし日や年の

しるしとなれ天の大空に光る物がある

地を照らせそのよりになつた

神は二つの大きな光る物と星を造り

大きな光る物と星を造り

治めさせられた神はそれらを天の大空に

暁いて地を照らす世の昼と夜を造り出させ
と聞かされた神はこれを見て
良しとされた。夕べかあり朝があつた
第四日である。神は言われた。生き物が
水の中に群がれ鳥は地の上天の天空の
面を飛ぶ。神は水に群がるもの大きな
怪物うぐいめく生き物をそれぞれにまた
翼ある鳥もそれぞれに創造された
神はそれを見て良しとされた。

2
神はそれらのものを祝福して言われた

「産めよ増えよ海の水に満ちよ鳥は地の上
に増えよ」
フズブが有り朝があつた第五
の日である

神は言われた地はそれぞれに生き物を
 産み出せ家畜這うもの地の獣をそれぞれに
 産み出せしるのようにならば神はそれぞれに
 地の獣それぞれの家畜それぞれに這う
 ものを造られた神はこれを見て良とされた

神は言われた我々にかたどり我々に似せて
 人を造ろうして海の魚空の鳥家畜
 地の獣地を這うすべてを支配させよう

神は御自分をかたどつて人を創造された
男と女に創造された神は彼らを祝福
して言われた産めよ増えよ地に満ちて

地を従わせよ海の魚空の鳥地の土を

這う生き物すべてをも支配せよ

29 神は言われた見よ全地に生えたる種を

もつ草と種を持つ実をつけろ木をすべ
あなただちたに与えようそれがあなた

たちの食物となる地の獣空の鳥
地を這うものなどすべて命あるものは
あらゆる草木等も食物となるように
なると神は造りになるとすべしその御覽
になつた見よそれは極めて良かつた
アベがあり朝があつた第六の目である

才二五早^①天地万物は完成された
才七の日に神は御自分の仕事を
完成され才七の日に神は御自分の仕事を
離れ安息なさったこの日に神はすぶての
創造の仕事と離れ安息なさったので
才七の日を神は祝福し聖別された
これが天地創造の由来である
まなす神が地と天を造られたとき

まがさる神は東の方のエデンは園を設け
自ら形づくった人をそこには置かれた
まがさる神は見ふからに好ましく
食ぶるに良いものをもたらすあらゆる
木を地に生えいであらせまた園の中央には
命の木と善悪心の知識の木を生えいで
させられたたエデンから一つの川が流れて来た
園を測りそぎで分かれて四つの川となっていた

第一の川の名はピシヨンで金を産出する
ピラ地方全域を巡っていた。その金は良質
でありそこでまた琥珀の類やラピスラズリも産出
した。第二の川の名はギホンでラシ地方全域を
巡っていた。第三の川の名はチグリスでアモールの東の
方を流れており第四の川はユーフラテスであった。
またこの神は人を連れて来てエデンの園に
住ませ、人がそこを耕し守るよみにされた。

まなむ 神は人に命じて言われた園の
すぶこの木から取って食べなさいただし善悪
の知識の木からは食べてはならぬといふ食べると
必ず死んでしあうまなむ 神は言われた

人が独りでいるのは良くない彼に命じて助け者を
造らうとまなむ 神は野のあらゆる獣空の
あらゆる鳥と土で形づくろう人のところへ持参して
人がそれとどう呼ぶか見ておられた

人が呼ぶとそれはすぐに生き物の名となった
人はあらゆる家畜空の鳥野のあらゆる
獣に名を付けたが自分から命を助けろ者を見
つけろとかがてきな神はそとで

人を深い眠りに落としされた人が眠り込むと

あばら骨の一部を抜き取りその跡を肉でふさいだ
その人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げた
主なる神が彼女と人のところろに連れ来て暮らすと

人は言つたつにこれこそ女(イキ)と呼ぶ
まゝに男(イキ)から取られたものだから
こゝろわけて男は父母を離れて女と結ばれ
二人は一体となる人と妻は二人とも裸であつた
恥ずかりがかりな人がた

死んではいけなからと神様はおっしゃい
ました蛇は女に言った、決して死ぬことはい
それと食ぶると目が開け神のよりに善悪を
知らぬものなうらなを神はなごなごなのだ
女が見るとその木はかたむきとおいらそらで
目を引きつけ、驚くならうに、暖かかった女は
実を取って食べ、一諸にいた男にも渡したの
彼も食べた二人の目は開け自分たちが裸である

ことを知り 二人はいちじくの森をとつがり
命をせ 腰を覆うものとした その日風の
吹くまらまなら 神が洞の中を音か聞えりた
アチムと女がまなら 神の顔を避けて 洞の木洞
に隠れりし まなら 神はアチムを呼ばれた
どにいろいろのかが 彼は答へた あなたの足音
が洞の中に聞えたので 恐ろしくなり 隠れて
おりまじり わたしは 裸ですがからし

神は言われた「お前が裸であることを
誰が告げただのか」取って食ぶると命だ
木から食ぶたのか」アダムは答えた「あなたが
わたしと共にいるようにしてくださった女が木
から取って与えたので食ぶました」主なる
神は女に向かつて言われた「何と、ことを
したのか」女は答えた「蛇がたまたまので食ぶ
てしましました」主なる神は蛇に向かつて

言われたた、いふようなとき、たお前は
あらずや、実言、あらずや、野の獣の中で
呪われたものも、たお前は生、握、這い
まわり、塵を食らう、お前と女、お前の
子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く
彼はお前の頭と、砕き、お前は彼のかかとを、砕く
神は女に向かひ、言われた、お前のはらみの苦
しみ、を、大きなものにする、お前は苦しんで

子を産む お前は男を求め彼はお前を

支配する 神はアダムに向かつて言われた

お前は女の声に従い取つて食ぶるなと命

じた木から食ふた お前は全握食物を

得ようと苦しむ お前に対して土は茨と

あがみをささいでせせる 野の草を食ぶようと

するお前にお前は顔に汗を流してパンを得る

土に返るときまで お前がそこから取られた土に

塵にすぎなむい お前は塵に返す

アダムは女をエバ(命)と名付けた彼女が盗んで

命あるものの母となつたからである

まじりし神はアダムと女に皮の衣を作つて着せられた

まじりし神は言われた人我々の一人のうちに

善悪を知る者となつた今は手を伸ばして

命の木からも取つて食べ永遠にまじりし者と

なりおそれがあるまじりし神は彼をエデンの園

から追い出し、彼に自分がそこから取られた
土を耕させたことにされた。ころりてアダムを

追放し、命の木に至る道を守ったためだ。

エデンの園の東に念じムと剣の炎火を置かれた。

為三章 蛇の誘惑

まじりし神が造られた野の生き物の

うらみで最も賢いのは蛇であった蛇は

女に言った園のどの木からも食べずは

いけないなどと神は言われたのかし女は蛇に

答えたたわはしたちは園の木の果実を食べ

るのみのですでも園の中央に生えている木の

果実だけは食べてはいけない触れずといかない

死んではいけなからと神様はおっしゃい
ました蛇は女に言った、決して死ぬことはい
それと食ぶると目が開け神のように善悪を
知らぬものなるとも神はござぬのだ
女が見るとその木はかたじけなくおいらで
目を引きつけ歎くならうに暖かかった女は
実を取って食べ一諸にいた男にも渡したの
彼も食べた二人の目は開け自分たちが裸だ

ことを知り 二人はいちじくの森をとつがり
命をせ 腰を覆うものとした その日風の
吹くまらまなら 神が洞の中を音か聞えりた
アテムと女がまなら 神の顔を避けて 洞の末
に隠れりし まなら 神はアテムを呼ばれた
どにいろいろのかが 彼は答へた あなたの足音
が洞の中に聞えたため 恐ろしくなり 隠れて
おりまじり わたしは 裸ですがからし

神は言われた「お前が裸であることを
誰が告げただのか」取って食ぶると命だ
木から食ぶたのか」アダムは答えた「あなたが
わたしと共にいるようにしてくださった女が木
から取って与えたので食ぶました」主なる
神は女に向かつて言われた「何と云うことを
したのか」女は答えた「蛇がたまたまので食ぶ
てしましました」主なる神は蛇に向かつて

言われたた、いふようなとき、たお前は
あらずや、実言、あらずや、野の獣の中で
呪われたものも、たお前は生、握、這い
まわり、塵を食らう、お前と女、お前の
子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く
彼はお前の頭と、砕き、お前は彼のかかとを、砕く
神は女に向かひ、言われた、お前のはらみの苦
しみ、を、大きなものにする、お前は苦しんで

子を産む お前は男を求め彼はお前を

支配する 神はアダムに向かつて言われた

お前は女の声に従い取つて食ぶるなと命

じた木から食うた お前は全生涯食ぶ物も

得ようと苦しむ お前に対して土は茨と

あがみをささいでせせる 野の草を食ぶようと

する お前にお前は顔に汗を流してパンを得る

土に返るときまで お前がそこから取られた土に

塵にすぎなむい お前は塵に返す

アダムは女をエバ(命)と名付けた彼女が盗んで

命あるものの母となつたからである

まじりし神はアダムと女に皮の衣を作つて着せられた

まじりし神は言われた人我々の一人のうちに

善悪を知る者となつた今は手を伸ばして

命の木からも取つて食べ永遠にまじりし者と

なりおそれがあるまじりし神は彼をエデンの園

から追い出し、彼に自分がそこから取られた
土を耕させたことにされた。ころりてアダムを

追放し、命の木に至る道を守ったためだ。

エデンの園の東に念じムと剣の尖火を置かれた。

才四章 カインとアベル

さてアダムは妻エバを知らず彼女は
身ごもつてカインを生産みわたしは主に
よつて男子を得たと言つた彼女は
また弟アベルを生産んだアベルは羊を飼
う者となりカインは土を耕す者となり
時を得てカインは土の實りをもとに
献げ物として持つて来た

アベルは羊の群れの中から肥えた初子を
持て来た。亜はアベルとその献げ物に目を留
められたが、カインとその献げ物には目を留め
られなかった。カインは激しく怒り、顔を伏せた。
亜はカインに言われた。どうして怒るのか、
どうして顔を伏せるのか、もしお前が正しい
のなら顔を上げられるはずではないか。
正しくないなら罪は戸口で待ち伏せており

お前を求めろ。お前はそれを支配せねば
ならぬ。カインが弟アベルに言葉集をかけ
二人が野原に着いたときカインは弟アベルを
襲って殺した。主はカインに言はれた
「お前の弟アベルはどこにいるのか」カインは答えた
「知りません。わたしは弟の番人です。どうか
主は言はれた。何と云うことをしたのか。お前の
弟の血が土の中からわたしに向かって叫んでいる。」

今お前は呪われぬ者となつたお前が
流した弟の血を口を開けて飲み込んだ
土まうもな お呪われぬ土を耕しても土は
もはやお前のために作物を生み出すことは
ないお前は地上をさまよひつゝう者とな
カインはまに言つたわたくしの罪は重き故に
負いきれません 今自あなたからわたくしをこの
土地から追放なかり わたくしが御顔から隠れて

地上をさまよひ、さすらう者とたがうアームのえは
わたりに出会う者はだれであれわたしを
殺すぞしよろし、まはカインに言われた、いや
それゆえカインを殺す者はだれであれ七倍の
復讐を受けけるであらう、まはカインに出会う
者がだれも彼を撃つことのないようにカインに
しるしを付けられたカインはまの前を去りエデン東
へトキすらいこの地に住んだ

カインは妻を知った。彼女は身ごもりてエラを
産んだ。カインは町を建てた。だがその町を息子の
名前前にちなんでエラと名付けた。エラには
イラドが生おれた。イラドはメラエルの父となり。メラエルは
メトシヤルの父となり。メトシヤルはシメウの父となり。シ
メウは二人の妻をめでた。一人はアガも一人はツラと
いった。アガはヤバルを産んだ。ヤバルは家畜を飼ひ
天幕に住む者の先祖となり。ツラは

その弟はトベルといひ堅琴や笛を奏する者すべし
先祖となつたツラもまたトベルカインを産んだ
彼は青銅や鉄でさまざまの道具を作る者

なつたトベルカインの妹はナアマといつたさアメメクは
妻に言ふたアゲとツラよわが産を聞けシメクの妻だ

わが言葉に耳を傾けよわたりは傷の報いに
男を殺し打ち傷の報いに若者を殺す
カインのための復讐が七倍ならシメクのためには七十七倍

再びアダムは妻を知った。彼女は男の子を産み、セトと名付けた。カインがアベルを殺したので、神が彼に代る子を受け（シヤト）らぬたからである。セトにも男の子が生まれ、彼はその子をエノシと名付けた。まの御名を呼び始めたのはこの時代のことである。

第五章 アダムの系図

これはアダムの系図の書である神は人を創造され
た日神に似せてこれを造られの男と女に創造の日
に彼らを祝福され人と名付けられた

アダムは百三十歳になつたとき自分にかた
どつた男の子をもつけたアダムはその子をもセトと名付け

アダムはセトが生まれる後八百年生きて息子や娘を
もつけたアダムは九百三十五年死んで死んだ

セトは百五歳になつたとき
エノシヤ

①セトはエノシが生まれて後八百十五年生きて息子や娘
をもろけた②セトは九百十二年生きて息子や娘
をもろけた

③エノシが九十歳になつたときケナをもらけた④エノシは

ケナが生まれて後八百十五年生きて息子や娘をもろけた

⑤エノシは九百五年生きて息子や娘をもろけた⑥ケナは九百七歳に

マハラエルをもらけた⑦ケナは九百十年生きて息子や娘をもろけた

⑧マハラエルは九百五歳になつたときケナをもらけた

⑨マハラエルは九百五歳になつたときケナをもらけた⑩ケナは九百五歳になつたときケナをもらけた

娘をももうけた

⑭

マハラルエルは八百九十六年生きて死んだ

⑮ イエレドは百六十二歳になつたとき、エノクをももうけた

⑯ イエレドはエノクが生まれて後八百年生きて息子や娘

をももうけた ⑰ イエレドは九百六十二年生きて死んだ

⑱ エノクは六十五歳になつたとき、メトニユラをももうけた

エノクはメトニユラが生まれて後三百年、神と共に歩み

息子や娘をももうけた ⑳ エノクは百六十五年生きて

エノクは神と共に歩み神がとられたのでいなくなつた

㉑ メトニユラは百八十七歳になつたとき、シメウをももうけた

②メトミラはシダが生やれた後七百八十二年生きて息子を
や娘をもうけた②⑦メトミラは九百六十九年生きて死んだ
②⑧シダは百八十二歳になつたとき男の子をもうけた②⑨彼は
妻の死をもうけた大地で働く我々の手の苦勞をうける子
は慰めやくれうであらうしと云つてその子をノア(慰め
と名付けた)③⑩シダはノアが生やれた後九百九十五年
生きて息子や娘をもうけた③⑪シダは七百七十二年生きて
死んだ③⑫ノアは五百歳になつたときセム(ト)を
もうけた

第六章 洪水

① さて地上に人が増え始め娘たちが生まれ
た② 神の子らは人の娘たちの美しいのを
見ておのおの選んだ者をも妻とした
③ 主は言われた「わたしの霊は人の中に
永えにとどまらざるべきではなむ人は肉に
すぎなるのだがらくらくして人のしきは
百二十年とならたき時にもその後も

地上にはネフリムがいた。これは神の子ら
が人の娘たちのもとへ入って産ませた者
であり、大昔の名高い英雄たちであった
。まは地上の人の悪心が増し、常に悪心い
はかりを心に思い討つてゐるのを御覽に
なす。地上に人を造つたことを後悔し心を
痛められたまは言われた。わたしは人を
創造した。だがこれを地上からぬぐい去らう。

人だけでなく家言も遣うものも空の鳥
もわたりはこれらを遣ったことを後悔す
しかしアは主の好意をも得た

これはアの物語であるその世代の中で
アは神に従う無垢な人であった

アは神と共に歩んだアには三人の
息子セムハムヤ右トが生まれたこの地は

神の前に墮落し不法に満ちていた

神は地を御覽にならば見よそれは
墮落しすべて肉なる者はこの地で墮落の
道と歩んでいた神はアに言ひられた
すべて肉なるものを終らせよ時がわたし
の前に来ている彼らのゆえに不法が地に
満ちている見よわたしは地もあとも
彼らと滅ぼすあなたはゴズル木の
箱舟を造りなさい箱舟には小部屋

を、残つても造り内側にも外側にも
タールを塗りなさい次のようにして
それを造りなさい箱身の長さをも
三百アシマ幅を五十アシマ高さをも三十アシマ
にし箱舟に明かり取りを造り上から
一アシマにしてそれを仕上げなさい箱舟の
側面には戸口を造りなさいまた一階と
二階と三階を造りなさい見よわたしは

地上に供水をもたらし命の霊をさす
すべての肉なるものを天の下から滅す
地上のすべてのものは息絶えさる
わたしはあなたと契約を立てる
あなたは妻子や嫁たちと共に箱舟に
入りなさいまたすべての命あるものを
肉なるものからにつすつ箱舟に連れて
入りあなたと共に生き延びるよらに

それらは雄と雌を分けねばならぬ
それぞれそれぞれの鳥 それぞれの家言田それ
ぞれの地を這うものがこつこつあなた
のところへ来て生きたびるよになき
更に食べられる物はすべてあなたの
ところに集めあなたと彼らの食糧
よくなさい アハはすべて神が命
られたとおりに果した

七き早きはニアに言われた

さああなたとあなたの家族は陸相舟
に入りなさいこの世代の中であなただけは
わたしに従う人だとわたしは認めてい

あなたは清い動物をすべて一つがいずつ

取りなさい空の鳥も七つがい取りなさい

全地の面に子孫が生き続けるように

七日の後わたしは四十日四十夜地上に雨を

降らせわたしが造つたすべての生き物
を地の面からぬぐい去ることにした
アはすべてまが命じられたとおりにした
アが六百年歳のとき洪水が地上に起こり
水が地の上にはみなぎつたノアは妻子や
嫁たちと共に洪水を免れようと箱舟に
入った清い動物も清くなく動物も鳥も
地を這うものもすべてこつこつ箱舟のアの

降らせわたりが造つたすべての生き物
を地の面からぬぐい去ることにした
アはすべてまが命じられたとおりにした
アが六百歳のとき洪水が地上に起こり
水が地の上にはみなぎつたノアは妻子や
嫁たちと共に洪水を免れようと箱舟に
入った清い動物も清くなく動物も鳥も
地を這うものもすべてこぼつ箱舟のアの

のもとに來たそれは神はがノアに命じら
れたとおりに雄と雌であつた七日が過ぎて
洪水が地上に起つたノアの生涯の六百五
才二の月の十七日この日大なる深淵の源が
ごとごとく裂け天の窓が開かれた
雨が四十日四十夜地上に降り続いたがまことに
この日ノアも息子のセムハムヤフエトノアの妻
この三人の息子の嫁たちも箱舟に入った

彼らと共にそれそれの獣それそれの鳥
小鳥や翼のあるものすべて 命の霊をもつ
肉なるものの雄と雌とが来た 主はノアの
後で産を閉ざされた 洪水は四十日間地上を
覆った 水は次第に増して箱舟を押し上げ
箱舟は大地を離れて浮かんだ
水は勢力を増し 地の上に大いにみなぎり
箱舟は木の面を漂った

水はますます勢いも増加えて地上に
みなぎりおよそ天の下にある高い山は
すべて覆われた水は勢いも増して更に
その上十五アコマに達し山々も覆った
地上で動いていた肉なるものはすべて鳥も
家畜も獣も地に群がり這うものも人も
こしこどく息絶えた
乾いた地のすべてのもものうちその鼻に

命の息と霊のあふものはいつとく
死んだ地の面に生きた物はすべて人を
ほじめ家畜畜遠うもの空の鳥に
至らずでぬぐい去られた彼ら大地を
ぬぐい去られノアと彼と共に箱舟にた
もつだけが残つた
水は百五十日の間地上で勢力を失つた
かた

第九十甲神はノアと彼と共に箱舟
にいたすべしとの獣とすべしとの家畜を
御心に留め地の上に風を吹かせられ
たので水が減り始めたまた深淵の
源と天の窓が閉じられたぞ天からの
雨はやみ水は地上からひいて行つた
百五十日の後には水が減つて第九十の月
になり第九十の月の一日には山々の頂が現われた

四十日たつてノアは自身が造つた箱舟の
窓を叩き鳥を放した鳥は飛び立ったが
地上の水が乾くのを待たず出て来た
ノアは鳩を彼ののもとから放して地の面から
水がひいたかどうかを確かめようとした

しが鳩は止まる所が見つかつたので
箱舟のノアののもとに帰つて来た水がまだ
全地の面を覆つていたからである

アは手を差し伸べて鳩を捕らえ箱舟の
自分のもとに戻した更に七日待つて
彼は再び鳩を箱舟から放した
鳩は夕方になつてアのもとに帰つて来た
見よ鳩はくちばしにオリーブの葉をとくわす
いたアは水が地上からひいたことを知った
彼は更に七日待つて鳩を放した鳩は
もはやアのもとに帰つて来なかつた

ノアが六百一歳のとき、最初の月の一日に地上の
水は乾いた。ノアは箱舟の覆いを取り外して
眺めた。見よ、地の面は乾いていた。
第二の月の二十七日になつても、地はすまみ乾いた。
神はノアに仰せになつた。「さあ、あなたも
あなたの妻も息子も嫁も皆一諾に箱舟
から出なさい。すべて肉なるものうちから
あなたのもとに集たすべての動物、鳥も

家畜も地を這うものも一諸に連れ出し
地に群がり地上で子を産み増えらるるに
しなきしそぞでアは息子や妻や嫁と共に
外に出た獣這うもの鳥地に群がりもの
それぞれすべて箱舟から出た
アは主のため祭壇を築いたそして
すべての清い家畜と清い鳥のうちから
取り焼き尽くす献げ物として祭壇の上に出
げた

まは宵めの香をかいで御心に言われた
人に対しても大地と呪うことは二度とすまひ
人が心に思うことは幼いときから悪じいのだ
わたしはこの度したよろに生き物をいかに
打つとは二度とすまひ地の続くかぎり
種蒔きも入れも寒さも暑さも夏も
冬も冬も冬もやむことはなほ

第九五章 祝福と契約

神はノアと彼の息子たちを祝福して
言われたた「産めよ増えよ地に満ちよ」

地のすべての獣と空のすべての鳥は

地を這うすべてのものと海の凡ての魚と

共にあなたたちの所にいおそれおののま

あなたたちの手にゆだねられる

動いている命あるものは凡てあなたたちの

食糧とすゝがよゝわたりはこれら凡そのもをき青草と因じよゝにあなたたちに与えよ。ただし肉は命もある血を含んだまま食べてはならぬ。またあなたたちの命がある血が流された場合はわたしは賠償を要求する。いかなる獣からも西女を求めず。人間どうしの血については人間から人間の命を賠償として西女を求めず。

人の血を流す者は人にようて自分の血を
流される人は神にかしとて造られたが
あなたたちは産めよ増えよ地に群がり地に
増えよ神は今と彼の息子たちは立られた
わたくしはあなたたちとそとてあとしに
続く子孫と
契約を立てるあなたたちと共にいるすべての
生き物またあなたたちと共にいる鳥や家畜
や地のすべての獣なども箱舟から出た凡ての獣

箱舟から来た凡てのもののみならず地のすべ
ての獣と契約を立しむ。わたしがあなたたちと
契約を立してたならば二度と洪水にはよらな
く、肉なるものがことごとく滅ぼされふことはな
く、洪水が起る地を滅すことと決りてなる。
更に神は言われた、あなたたち並に
あなたたちと共にいるすべての生き物と代々
とこういえにわたしが立てる契約のしるしは
これである。

すなわちわたしは雲の中にわたしの虹を
置くこれはわたしと大地の間に立った契約
のしるしとなすわたしは地の上に雲と湧き
起らせ雲の中に虹が現れしをわたしは
わたくしとあなたたちならびにすべての生き物
すべての肉なるものとの間に立った契約を
心を留めず水が洪水となす肉なるものを
すべて滅ぼすことは決しとなす

書の中にも虹が現われとわたしはそれを
見て肉なるものとの間に立てた永遠の
契約に心を留めよ神はアに言われた
これがわたしと地上のすべて肉なるもの
間に立てた契約のしるしである

アと息子たち

箱舟から出たアの息子はセムハムヤブト
あつたハムはカナンのもつとこの三人が

ノアの息子子で全世界の人は彼から出て
広かったのがであるさてノアは農夫となり
ぶどう畑を作ったあるときノアはぶどう酒
を飲んで酔い天幕の中で裸になつていた
カナンの父ハムは自分の父の裸を見て外にた
兄弟に告げたセムとヤフエトは着物を取つて
自分たちの肩に掛け後ろ向きに歩いて行き
父の裸を覆つた二人は顔を背けたまま
父の裸を見なかつた

ノアが酔いからさめるとき末の息子がした
ことを知り「こう言った、カナシは呪われよ
奴隷の奴隷となり兄たちに住へよ」
また言った「セムの神をたたえよカナシは
セムの奴隷となり神がヤマトの土地を占げ
(ヤマト)セムの天幕に住ませカナシはその
奴隷となり」ノアは洪水の後三百五十年すまた
ノアは九百五十歳になりて死んだ

第二十章 ノアの子孫

ノアの息子子セムハムヤヱトの系図は次のとおりである。洪水のあと、綾らに息子が生まれた。

ヤヱトの子孫はゴメルマゴブメテアヤウシトバルメテラ
ライラスであった。^③ゴメルの子孫はアシケナズラトトガルマ
であった。^④ヤウシの子孫はエリシヤタルシニシキテム

ロダニムであった。^⑤海沿いの国々は彼らから去り、それぞれ
の地にその言語、氏族、民族に従って住むようになった。
ハムの子孫はフシムのエジプト、アトカナンであった。

ラミの子孫はセバハビラ サブタミ サブテカであり
ラマの子孫はニエバとデダシであった。クニには
またニムロドが生まれた。ニムロドは地上で最初の勇士
となつた。彼は主の御前に勇敢な狩人であり
「主の御前に勇敢な狩人ニムロドのようだ」といふ言ひ方が
あつた。彼の王国の主な町はバベル、ウル、アガドで
あつた。それらはすべてニニアルの地にあつた。彼は
その地方からアタニリアに進み、ニネベとホボトイルカラ
しセシを建てた。しセシはニネベとカラとの間にある非常

に大まかな町であった⑬エジプトにはリギア人アナシム人
シビム人ナフトヒム人⑭上エジプト人カスルヒム人カフトル人
が住んだこのカフトル人からペラシテ人が出た⑮カナンには
長男シドシとハト⑯エブス人^{エブス}アモリ人ギルガシ人⑰ヒビ人
アルキ人シニス人⑱アルワド人ツアリ人ハマト人が住んだ
その後カナン人の諸氏族が広がった⑲カナン人の領土は
シドシから南下してエテルを経てガザまで含み更にシドム
ゴモラアドラツボイムを経てラシヤまで含んだ

これらが氏族言語地域民族ごとにあつた。ハムの子孫であつた。セムにもあつた。子供が生まれた。彼はエベスのすべての子孫であつた。ヤマトの兒であつた。②ヨセムの子孫はエラムアミールアルバクシヤド、ルドアラムであつた。③アラムの子孫はウツルゲテルマシエであつた。④アルバクシヤドにはニムラが生まれ、ニムラにはエベルが生まれた。⑤エベルにはエスの息子が生まれた。ひとり、その名はその時代に土地が分けられた。⑥アラムの子孫は、その兄弟はヨラタンとよきうた。⑦ヨラタンにはアルモガド、ニムラ、ハシム、ベト、イキラ、⑧ハドラム、ウザル、ライクラ。

① オバル アビマエル シェバ ② オスル ハビラ ヨバブが生まれた

これら皆 ヨラタンの息子子であった ③ 彼らはメシヤから

セファルに至る東の高原地帯に住んでいた

④ これらが氏族言語地域民族ごとにまとめたセムの子孫である

⑤ ノアの子孫である諸民族を氏族ごとに

の系図にまとめる以上のようになる 地上の諸民族

は洪水の後彼らから分かれた